

開会 令和4年8月24日
閉会 令和4年8月24日

足利市総合教育会議

足利市教育委員会

令和4年度第1回 足利市総合教育会議 会議録

1 開催日時 令和4年8月24日(水)
開会 午後4時00分 閉会 午後5時00分

2 開催の場所 足利市役所4階 特別会議室

3 出席者

市長	早川	尚秀
副市長	塚原	達也
教育長	須藤	秀幸
教育委員	笠原	健一
教育委員	市橋	雅子
教育委員	照本	夏子
教育委員	木村	知巳

4 会議出席した事務局職員

行政経営部長
総合政策課長
行政管理課長
教育次長
教育総務課長
文化課長
市立美術館長
教育総務課庶務担当総括主幹
教育総務課庶務担当主幹

5 傍聴 傍聴者 なし

6 会議日程

市長挨拶

教育長挨拶

議題 「市民アンケートの結果からみる教育委員会の取り組みについて」

7 会議の経過

○ 開会

○ 早川市長挨拶

現在、コロナの関係につきましては、若干高止まりところもありますが、感染防止対策を進めながらも、社会活動・文化活動・経済活動を行っていきたいと思っています。また、来月からは、二学期が始まりますので、教育委員会を通して、学校現場でも感染が広がらないように、子供たちが安心して、学校に行けて、そして教育活動ができますように、市としても頑張って取り組んでいければと思っています。

そしてまた、来月の10日からは、いよいよ国体も始まります。担当課が中心となりまして、精一杯準備をしております。足利市にやってきてくれる方々が、いい印象を持って、終わった後も足利市に意識をもってくれるように、しっかりと準備をして、そして無事に成功するように、取り組んで参りますので、引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

本日は、「市民アンケートの結果から見る教育委員会の取り組みについて」を議題といたしました。

この市民アンケートは、市民の声を市政に反映できる一つ的手段として考えております。その中で教育委員会の案件が上位を占めたということは、市民の教育に関する関心の高さを示すとともに、昨年度開催の刀剣展や全小中学生に対するタブレットを活用した学習などが、市民の皆様から評価されているのではないかと考えているところでございます。

本日はこれらに限らず、教育行政全般につきまして、教育委員の皆様方と意見交換を行っていきたいと思っておりますので、限られた時間でございますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

○ 須藤教育長挨拶

早川市長におかれましては、日頃より、本市の教育行政に深いご理解を賜り、また、本日、私達教育委員と教育に関して話し合いができる場を設けていただき、心より感謝申し上げます。

各学校では、ここ2年間以上、コロナ禍ということで、子供たちの安全安心を確保するために、もっと自由に、もっと幅広く、もっと子供を主体的に実践したいという思いも募りながらも、様々な制限・制約の中で、工夫をしながら教育活動を展開しているところであります。

子供たちのコロナ感染者数がなかなか減少傾向を示しませんが、現在のところ、9月1日の2学期の始業式は、通常通りに迎えていきたいと思っております。

教育委員会といたしましては、コロナ禍の2学期であっても、子供たち一人一人が明るく、笑顔で、そして、小さな成功体験を積み重ねていけるよう、学校を支援して参りたいと考えております。

本日は、自由な意見交換、幅広い話し合いを通して、課題を共有し合い、さらにはその解決の方向性が見出せれば幸いだと思っております。

足利の子供たちのために、本日はよろしく願いいたします。

○ 議題 「市民アンケートの結果からみる教育委員会の取り組みについて」

教育総務課長

市民アンケートの結果からみる教育委員会の取り組みについて説明

市長

ただ今、市民アンケートの結果から見る教育委員会の取組みについて説明がありました。

本日は、今の説明があった小中学校の充実、または、文化発信事業の推進のほか、教育行政について、自由に意見交換させていただきたいと思っております。

それでは皆様からご意見をいただきたいと思っておりますので、是非、積極的なご発言いただければ幸いに存じます。

説明の中心であった小中学校や文化発信事業からでも結構ですし、発言を是非ともお願いいたします。

笠原委員

小中学校での各種授業関係の充実というところで、お話ししたいと思っております。項目がいくつもある中で、2番目というのは、教育委員からすると、ある程度評価していただいていると、安心するというか、嬉しいことでもあります。

一方で、先ほど不満の理由でもありましたが、子供たちは、生身の人間で行動もなかなか予想し得ないのですから、これに対応するには先生なり、いろんな形の人が必要である。そういう意味では、引き続きこの満足度を維持するために、或いは、満足度1位にするために、是非とも人の確保をお願いしたい。

いずれにしろ好位置でいられるのは、今までの様々な形での予算や人に関して、ある程度、ご理解と評価いただいていることもあると思っておりますが、引き続き、併せてお願いしたいと思います。

市長

はい、ありがとうございます。

教員が不足しているという指摘がありまして、人材の確保、必要な財源の確保等について、笠原委員からご意見がございました。

関連でも結構です。他にもこういった、この小中学校の充実といったテーマでご意見がございましたら、お願いします。

木村委員、お願いします。

木村教育委員

それではタブレットの活用についてです。

今、デジタル化がかなり進んでいる中で、教育に関しても大きな転換点ではないかと私どもも思っています。

タブレットが各小学校全児童と中学校全生徒に配布された中で、教育をさらに充実させ、省力化で大きな効果を上げる一つのチャンスだととらえています。

もちろん教員の増員は本来ですけれど、子供たちの教育のデジタル化によって大きな効果を得られると思っています。極端な話ですが、1人数学のいい先生がいたら、その先生の授業を全学校に配信することができます。

タブレットの使い方では、宿題の履修状況について、親や先生が分るのではないかと考えていくと、子供たちの習熟状況が可視化でき、大きな教育効果が得られると思います。

これは、学力に関してですが、おそらくどこの学校どこの地域も経験していない新しい道具だと思いますので、足利市として、タブレットを使っての教育に対して、有識者を使って大きく変換させていく一つの流れなのかと思えますので、そこへリソースを割いてもらえると、ありがたいと思います。

市長

ありがとうございます。

照本先生、どうぞ。

照本委員

アンケートを見て、子供とか家庭、小中学校に非常に密接に関わるところで、私が言えることはないかと考えてきたので、そのお話をさせていただこうと思います。

第8次足利市総合計画を拝見して、教育・文化の中に男女共同参画というのがありましたので、その部分でお話をしたいと思っています。

今、両親が働いている家庭やひとり親家庭が増加する中で、親が少しでも気持ちの余裕を持って子供を育てる環境作りというのは、非常に子供の心の安定にもつながりますし、親が子供と関わる時間の確保や子供の家庭教育の時間を増やす、スマホとかゲームにかける時間を少しでも減らして学習につなげる、ひいては、足利の子供たちの学力の向上につながるのではないかと感じております。

そのためには、地域で子どもを育てる仕組みや放課後学童クラブの充実等のハード面での支援ももちろんですが、男女関係なく、大人になったらひとりの人間として自立して生活をし、同じように社会の中で役割と責任を果たしていくという内容の醸成が非常に重要であると感じています。そういったことを子供たちが、深く意識することによって、社会全体が変わってくるという部分も非常にあります。

私が考える男女平等や男女共同参画は、女性が積極的に社会に関わっていくということだけではなく、家事能力は決して女性の方が高いわけではなく、子育ては女性の方が得意なわけでもないと思いますので、家庭の中で、得意な方を得意な側がやる。例えば、男性の方が得意であれば、男性がそれをして、女性が働いて、男性はしばらく育児休暇を取るといったことをしても、周りの方たちが「男性なのにすごいね」とか、「お母さんなのに子供と関わる時間が少なくて大丈夫なの」とかを言わない社会だと思っています。

社会全体がそういう感覚であれば、男女の収入格差や母親のひとり親家庭の貧困率が高くなるのかも少なくなっていくと思いますし、地域の男性と女性が、いろんな角度から子育てにかかわっていくことができるのではないかと考えています。

そこで、大人になってから、男女共同参画を意識したとしても、小さい頃からの社会的慣習や影響は、自分の中で取り除き、改善することが難しいため、子供のうちから、そういったことを深く意識するような教育をすることで、様々な社会問題も解決していけるのではないかと考えています。

ですので、学校の中では、積極的に男女が平等だというよりも、特性を生かしてそれぞれがやるべきことを選択しても、誰かに何かを言われぬという教育をしていただきたいと私自身は考えています。

足利市には、男女共同参画センターがありますので、ぜひそういうところも使って、足利市はそういうことに重点を置いているということ、他の市町村の方にも知っていただくことで、足利で子育てする方も出てくるのではないかと考えております。

市長

ありがとうございました。

松村先生、お願いします。

松村委員

今の照本委員さんのお話しにもつながっていることだと思いますが、安心して学ぶということ、あとは一人ひとりに寄り添いながら、一人ひとりにあった教育をするという状況が、ひいては、学力向上につながる。安心して子供たちが生活できることも大事である。

小中学校では、充実について最重要度が去年から上昇しているというところでは、子供たちの人口減やコロナ禍がきっかけになって、一人ひとりの子供たちがかけがえないことや学校が重要であることが再認識されたと思います。

また、満足度も2位であるということは、学校が、保護者や地域にも良く理解していただいたということで、学校側が地域に開いていって情報発信を一生懸命していったことで、信頼も得られたと思い、喜ばしく思っています。

ただ、お話がありましたように、不満も多く25件あがっておりますので、その中の、二つ目の教員不足と教員の質の向上について、自分の考えを申し上げます。

不足というのがどのくらいなのか、教師の質はどんな質が求められるのか考えてみますと、足利市の教育の基本姿勢は、全体の計画の中にも最初に謳ってある通り、一人ひとりの子供に一生懸命目を向けて、人権教育や特別支援教育を大事にしているのが、足利の教育だと思います。

歴代の教育長さん、現教育長さんからもたくさん教えをいただいておりますが、今日一日その子はどうだったか、一人ひとりの事実、いろいろ背景がどうなのかということに一生懸命目を向けようとしているのは、足利市の人権教育であり、それを実践しているのは、特別支援教育だと思っております、特にこの二つの柱を、これからはしっかりと、取り組み続けていくことが、教員の質の向上ということにつながると思います。

それと先ほど笠原委員さんが申し上げました、人的配置について、自分なりに思うことを述べさせていただきます。

教科担任制を小学校では進めていくと、専門性も上がりますので、いろいろなところが解消できる。

また、中学校では、部活動指導員の確保ということが、大きく中学校の教員の指導力向上にもつながり、子供たちと接する時間も部活動以外でも増加するのではないかと考えます。

三つ目ですが、通級による指導教室の設置を、各学校に一つは必要であると思っております。県の人的配置によって、小学校では22校中9校、中学校では11校中3校に通級指導教室を設置していただいて、これは県内でも割

合が非常に高いのですが、それでも私は足りないと思っています。

設置してない学校は、隣の学校や遠い学校に親に送り返してもらうという状況です。一つの学校に一つ通級指導教室があり、そこできちんと専門的な指導ができるといえば、通常の学級の中の子供たちが通うことが校内でスムーズにできる。それが相談も連携も通常の先生と通級の先生ができるというところで、非常に効果は大きいと思います。

一部の子のことを言っているのではなく、そういうシステムがあれば、通常の学級で、子供たちもわかり易い授業ができると思います。予算を考えないのかもしれませんが、通常の学級の中の特別支援教育として人的配置をぜひお願いしたいと思います。

今までは、担任のところへ寄り添って、ちょっとクラスに入って、うまく様子を見ながら支援していただくような方がたくさん配置になって、本当にありがたいと思っていますが、固定の教室があることは、非常に今後の学校には重要になっていくと思っています。

先日、佐野市立あその学園義務教育学校を見学させていただいたのですが、特別支援学級が各階の校舎の中心に設置されておりまして、何となく通いやすく、通級指導教室は外からも入りやすく、それぞれの担任も複数おり、連携しながらやっていました。

学区再編などを考えていく時期になってきたかと思うのですが、通常の学級の中の特別支援教育をより充実するような、そんな視点を中心に据えて進めていただければ、市のよきモデルにもなると考えております。今後の施策の中でお考えいただけるとありがたいと思います。

市長

ありがとうございました。

ただいまは、4人の委員の皆様から、小中学校の充実という観点で、ご意見をいただきました。

今のお話をお伺いして意見ですが、タブレットにつきましては木村委員から、非常に前向きな活用の大変いい意見をいただきまして、ありがたく思っております。あくまでもツールとして、いかに使うかによってその効果の発現が変わってくると思います。

残念ながら最近のメディアの報道等を見ると、タブレット、デジタル化によって負担が増えたというようなアンケートの結果ばかり出てきています。

それは使い方が違うのではないかとあります。実際、教育現場の話を見ると、よくわかる若い先生が、ベテランの先生に質問され、フリーズして直してくれと、負担が増えている、そのような話も聞こえてきます。

タブレットに振り回されることはないので、有効に使って、それがより授

業の質の改善や、先生方の会議の持ち方、早帰りにもつなげている自治体、教育委員会の事例も全国ではありますから、きちんと研究をし、市内の小中学校にも示して、いいところを真似すればいいと思います。

タブレットの活用と、教員の働き方改革両方につなげていけるような有効な可能性を持っている分野だと思いますので、木村委員ご指摘のように、決して負担が増えたわけではなく、負担が増えるような使い方をしていることに問題があると思います。

同時にデジタル教科書も、紙ベースがいいという人はあると思いますが、デジタル技術の活用については大事であると思っています。

それから、教員の質の話については、質の改善、よりより良くしていく努力は、様々な研修を含めて必要だと思いますし、同時に、家庭、保護者にも、理解と協力をいただく必要があると思っています。

特別支援の部分については、僕も前職のときから、この分野は大事だと思っています。福祉の分野を見ても、高齢者福祉が先に来て、児童福祉、障がい者福祉となってきたのではないかとずっと思っていました。

やはり、分母が小さくても、声が小さくても、支援を必要とする人たちのところに、支援が行き届くことを目標にしてかないといけないと思います。

だから、松村先生のご指摘の通り、特別支援の部分も、幼稚園・保育園もそうですが、充実させていきたいという思いは持っています。

それと、僕は、子供たちの将来の可能性を広げるとか選択肢を広げるとか、生活豊かに将来を豊かにしてあげたいと、物質的、心、その両方だと思うのですが、そのためにいろんな触れる機会などを増やしていきたいという思いはあります。

例えば法人会が租税教室、最近では、第一生命が金融教育やっていますが、学校現場からすれば、もしかしたら負担と感じている現場もあるかもしれません。実際に手を挙げてきてくれない学校もあると思います。確かに現場からすれば、今やっている仕事はそのまま全部残して、追加で重ねられてきたら、それは確かにちょっと厳しいだろう。それは、学校の校長先生などが、マネージャーとして、授業の見直しをするとか、会議の持ち方を見直すとか、従来のは全部残したままで、やり切れるはずがないので、本当にやるべきことの優先順位をつけることも含めて、授業の見直しをそれぞれマネジメントしていけないといけないと思います。

そうでないと増える一方かなと思いますので、教育委員会がリードするなど、そういう指導についても議会から指摘もされておりますし、僕は、子どもたちを最前線に置いてやっていく必要があると思っていますので、現場がパンクしないようにも必要だと思っています。

副市長

学校充実では、学校の先生方の体制というは一番大事だと思います。その中で、今、デジタル・タブレット、来年度以降、デジタル教科書に変わっていく、活用は、先生方も初めてでしょうし、それを受ける子供さんも、家庭の保護者さんも、お互い手探りのところも含めながらやっていく。

一方、教科担任制が導入される。先生の専門の教科ごとにうまく配置になればいいのですが、生徒さん何人に一人というのがベースにあって、市長会を通じて県に要望しているのですが、加配ではなく必要な人数として配置すべきという視点で行ってもらわないと、必要な教科の先生方がそろわない。

そういった中にデジタル化とかデジタル教科書とか入ってくると、本来進めようとしている教育の分野が達成できるところが難しくなってくるのではないかとということもあるものですから、先生方の体制を整え、我々行政は、県の採用の先生が足りないところは市で対応して、なかなか正規の職員というところは難しいところですけども、お応えできるような体制づくりを進めてきたところですが、引き続き取り組んでいくものと考えております。

一方で最近、最低賃金が上がっておりますけど、先ほど委員さんがおっしゃられた家庭での役割分担という中で、10 数年間家庭の収入は横ばいで、二人が働かないと家計が担保できないというような中で、家計の余裕というところが、なかなか向上しない。経済的な面で、足利市も産業分野を活性化するような形をとりながら、家計を支援し、家庭の金銭的な余裕も含めて、時間的余裕もとれるようにする結果、私どももお手伝いをしてあげられれば、男女共同の見方もさらに改善されるのかという思いがあります。

そういった面で、行政とすると、学校がやり易く、充実をさらに図れるように支援について、効果が上がる形で取り組んでまいりますので、ご指導をお願いします。

市長

今、僕と副市長から申し上げましたが、それを含めて追加で、小中学校の実践というテーマでございましたら、ぜひ。

笠原委員

前にも申し上げたかもしれませんが、災害、医療、救命、命に関わること、健康に関わることは、当然、最重要度は高いです。

小中学生にとっての危険度というのは、私は、通学にあるのではないかと考えています。通学路を見直したり、安全性について、地域、学校は、できるだけ最善を尽くしているのだと思うのですが、私は、もう1回足利市民の中に、「通学時のヘルメット着用は不要でしょうか」という投げかけをして

みたいと思っています。やり方はわかりませんし、そうそうやる必要はないのか、だから、今やってないのかもしれないけども、太田市も含めて、いくつか市町村では地域が、それぞれヘルメット着用で通学をしている学校あるということは聞いています。足利ばかりではなく、栃木県全体で一校も無いらしいですから、通学に対して、そのまま手つかずになっていることに不安を感じています。

市長

そのほかありますか。

はい、照本先生どうぞ。

照本委員

松村委員から、特別学級についてお話がありましたが、特別支援学級に所属する子供たちのほかに、例えば、うちの息子は吃音が小さい頃からありました。吃音とかそういうものなどで、特別支援学級に行く人じゃないところのサポートについて、親の立場では、なかなか先生にお願いしづらいところがありました。

子供が小学校の時には、広島と一緒に住んでいましたので、必ず新しい学年になって先生が変わったら説明に行っていました。なかなか吃音の教室というのもなく、1年に1回、吃音の子が集まるキャンプに行っていたんです。全国から言葉の学校・学級の先生方集まってくるキャンプでした。

障がいとまでは認定されない子供たちが、安心して学校で生活できるようなサポートを考えていただけき、皆が楽しくだけでなく、皆がそれぞれの特性だと思って、学校に行けたらいいと思っています。

市長

確かに、特別支援学校、特別支援教室に行くかどうかというところでは、僕も前はよく相談を受けていたのは、何件もありました。ADHDとか、アスペルガーと言われてはいますが、僕に相談があったのは、担任の先生が変わったら、通常の学級の中で、周りの子供たちも仲良くサポートして、やっていると聞いたんですね。

だからその辺が、学校だと、おそらく特別支援教室に行くかどうか、その中間の子たちへの支援というのが少ない、薄いんですよ。それが、想定されてなかったのでしょうか、そういった子が増えているのは事実だということも、幼稚園連合会とかで言われております。

そういった現状に対応するだけの教育現場の教員の増員とか、対応できるノウハウを持っている先生とか、研修するとか、そんなことをやっていかな

くてはいけないんでしょうけど、財源を理由にして、できてないのが現状だと思しますので、非常に大事な部分かなと思います。

教育予算については、教育委員会は予算編成権が無いため、財政課に申し伝えていますが、教育予算はもっと付けてもいいかなと思っているところもあります。その使い道もありますけど、財政当局も含めて、必要な事業は、積極的にやっていかななくてはならない。

その中で、全く分野が違いますが、洋式トイレについて、担当職員たちがよく調べてくれて、足利市は従来、1か所40何万円かかっていました。それが宇都宮市や他では10何万でやっていたわけです。ホテル仕様の豪華なものを作る必要ないので、まずは洋式化という、障がいの子とかも含めていけるようなことだとすると、その単価を見直しして下げて、その分多く早く配置していく。そういうところを見直すということをやっているのです、少しずつこういうインフラ整備も含めて、予算をつけてやっていけることは、まだまだだと思いますので、頑張っていきたいと思います。

では、時間もありますので、もう一つ、文化発信事業についても、ご意見等ございましたら、いただきたいと思います。

笠原委員

私は、足利の魅力で、一番根源的なのは足利学校にあるというふうに思っております。

昨日の安足地区教育委員会連合会の研修会でも、足利学校を見学していて、つくづく私は、足利市民として、足利学校があることを見直し、その嬉しさ、感動は大きいです。

足利の別のアンケートで、住みたいとか、好きだとかはあって、誇りに思うというのが意外と少ないのは、何故かなと思いました。私は、足利学校のことをもっと足利市民が知った時には、それを含めて足利市に誇りが持てるのではないかと考えております。

五味先生には、毎月第何・何曜日は必ず足利に来る日にしてもらい、方丈や書院で過ごされてもかまわないですし、或いは散策にこられた方に、簡単なお話をされる。或いは、市職員の方に足利の魅力を言われてもいいですし、そういうことも含めて、今の足利学校の魅力というものが、まさしく五味先生が、倍加させてくださるっていると思います。

足利学校自身も、もう当然魅力あることですが、五味先生がおられることでさらに足利学校の魅力が増えて、そういうことを市民が知った時に、その市民が誇りという部分でも、足利学校はいいなと、五味先生の話聞いてよかったな、そういう部分でも誇りが増えたりするんじゃないかなと思います。

ぜひ足利学校を、さらに教育委員会の部分もありますし、それから文化・

観光とかもあるわけですから、両面からですね、足利学校の魅力をもっともっと知らせるようにしたいなと思いますし、そのことについてまたぜひ市長のお力添えをお願いしたいと思います。

市長

その他、文化発信の分野で、照本先生どうぞ。

照本委員

昨日、研修会の時に、やはり足利学校の案内と解説、市立美術館も解説していただいて、本当に足利のことを詳しく知ることができて、本当に役得だなと思いました。

7年前に私が足利に戻ってきて、樺崎寺に行った時に、非常に感動しました。

たまたまこのお盆に岩手県に行きまして、毛越寺と中尊寺、無量光院に行ったのですが、無量光院は、住宅があるところにポンと出てくる感じであるんです。非常に樺崎寺に似ているなと思ひまして、もちろん樺崎寺が、あの辺りの浄土庭園を参考にして造ったというのも知っていたのですがけれども、なかなか足利の人では知らないのではないかと思います。

無量光院は、過去にはこの場所にこういう建物がありましたという表示がありまして、そこから望むと何となく想像できるような感じで、すごくそれが素晴らしかったんですね。

樺崎寺もそうですし、足利学校に著名人が訪れていたことを一覽で見せていただいた時に、新渡戸稲造、吉田松陰、高杉晋作、皆知っている方たちが訪れたんです。それ一つとっても、もっと外にアピールできたら、もっともっと足利に興味を持ってくれると思います。そこから足利学校をもっと知りたい、樺崎寺のことをもっと知りたい、足利氏のことも知りたい、足利のことを知りたいという人がきっと出てくると思いますので、積極的にアピールして欲しいと思います。

全体として足利学校がいい、樺崎寺が素敵だと言っても、引っかかる人がいなければ、足利学校にこういう著名人が訪れた、足利学校っていうのは、こういうところがすごいんだ。樺崎寺はこういうところで、中尊寺だとかを参考にした非常に素晴らしい庭園なんだ、足利氏の廟所があったところなんだっていう、一つひとつのポイントを訴えてですね、それが心に響く人たちのところに、いっぱいそういうことをそろえれば、ヒットした人はちゃんと来てくれるのではないかと思います。ぜひそんなアピールをしていただければなと思います。

市長

ありがとうございます。はい。

松村委員

昨日、研修会で、市立美術館、「足利の魅力再発見」ということで、子供たちにしっかり見てもらうことを念頭に置いて、展示してくださっているっていうのに感動しまして、全員の子に見てもらいたい。学校にとって、あんなに素晴らしい企画はない。足利学校も含めて、文化と歴史の小中学生用の副読本のようなところ、近い場所から独自のものを作られて、社会科の授業とか、総合的な学習の時間で積極的にその勉強していただく、それが今回の企画で終わらないでずっと続けるようにして行っていただけたらと切に思いました。すばらしい企画で、私も足利人じゃなかったんですけど、本当にさらに足利に今住んでいることに誇りをもてるような、ふるさととして思えるようないい企画でした。

大切につなげて、もっと膨らませてもらえれば、学校にもっと迫っていただいても、他を省いても取り入れていただくっていうのは、今、大切じゃないかなと思います。

木村委員

私は、ちょっと切り口が違うんですけど、足利出身のソフト的なところでいうと、相田みつをさんだったりとか、売野雅勇さんだったりとか、あと川島理一郎さんだったりとか、日本中で活躍、一世風靡された方にフォーカスを当て、子供たちに郷土愛だったりとか、すごい方たちが育った所にあなたたちはいるんだ、ということをやちょっと取り入れることで、コーエーさんも一緒だと思うんですけど、教育に生かされることで、自分ももしかしたらそういうふうになれるというふうに、言い方よくないけど勘違いさせるってすごく重要なことじゃないかと思っています。

話が変わってしまうんですが、先ほど予算の関係でちょっと。私、教育委員になる前に、東山小学校PTAの会長をやらせていただいてそのあと、PTA連合会の方で役員の方をさせていただいて、昨今、PTA連合会かなり予算がない状況で活動している。僕は、教育環境の中にPTAって重要だと思っていますので、教育だったり研修会というところで、あまり予算がない中でやっていくというのは、子供たちの教育環境を良くするということで、一定の教育とか、その知識レベルが育たないのではないかと思っています、連合会の予算をより多くつけてもらえればというところが、まず1点。

私がPTA連合会にいるときに、各学校で「うちどく推進委員会」がメインになって、各小学校のうちどく活動をしているかと思うのですが、実はPTA

連合会から出た活動で、当時、桑山会長の方で、予算が結構あったので、プールしているお金を原資にして、「うちどく委員会」がPTA 連合会の中でできて、そのあと予算が無くなってしまった時もあるって、PTA 連合会からは完全に外れて、「うちどく推進委員会」という形で今、動いています。

非常に予算がない中、推進委員で、資料、各学校からあがってきたその作文を精査しながら、各企業に協賛金を募りながら活動支援を持ってきて、あまりにも負担がかなり大きいのかなと思っていて、このコロナ禍で多分協賛金が非常に集め難い中で活動している。たまたま先日お会いしてお話して、僕も一教育委員として何かお手伝いができればと思っていて、予算付を可能であれば、していただけたらありがたいと思っています。

市長

文化の分野でもご意見いただきました。

先日、両毛六市の市長会議があった場で、太田市長だったと思うのですが、ミシュラン本社が来たり、スバルの新しいラインができたりとことで東京方面からも新しい方達が来るけど、足利に住みたいって人、結構いるんだよねって話なんです。

それは、太田に対して持つイメージと足利に対してもっているイメージ、そういった人達の中には差があって、足利の歴史みたいな顔から出るイメージがあって、住むなら足利に住みたいって人結構いると指摘されました。

そういった言い方をされていることはありがたいことですし、それを伸ばしていかなくちゃいけない。足利の人たちにはもっと郷土意識を持ってもらいたいし、都会の人には良さを知ってもらって、リピーターになってもらいたいと思うんですよね。

だから、その辺では、確かに歴史や文化が大事な部分であり、強みだと思っています。足利学校に行っても、中学生の足利氏とかのことが見てわかるような、例えば系図とかも含めてあるわけじゃないでしょうし、これで樺崎寺の修復が完了して、立派になれば、点と点を結んで目に見えるルートを提案することできるでしょうし、鑿阿寺を中心に足利氏、中世というものがクローズアップしていくような取り組みを、観光協会と一緒にやってきたいと思っています。

特に、今年度からは、文化と観光が一緒になってきていますので、市役所内部でも場所をお隣同士にセクションをしてもらって、文化と観光の方々がやりとりしながら、いかに魅力を増していくか、発信していくことを考えながら仕事をしてもらっています。

10月からは足利学校の民間委託をスタートして、早川会長さんは、現在15万人位の年間の参観者を倍増させたいという目標をもって、街中の核にし

ていきたい、足利学校を足利の魅力を発信していく核にしたいって思いを持って取り組んでいてくれるところですよ。

足利学校がここにあって当たり前と我々思ってますけど、実は歴史的にはすごいものなんだと、ちゃんと市民にも外にも伝わるようにと思っています。

食の分野でも、ミシュランの星をとっているシェフとか、パティシエとか、出身の有名な方がいらっしゃって、何かのときに力を借りるとか、子供に何か夢を与えてくれるような講演してもらおうとか、実演してもらおうとか、そういった感性につながるような力添えをいただけるようなことも頂いています。我々の方がきちんとアプローチをして、常に関係を持ちながら、まちづくりを含めてやっていければなと思っていますので、ここは、じっくり準備をして、足利ゆかりの方々を大事にしていきたいと思います。

時間も来てしまいましたので、他に、今日のこの場で、問題提起をしていく、提供する、そんなものがありましたら、ぜひ次回に参考にします。

木村委員

先ほどから足利市出身の有名な方で、例えば、各小学校にタブレットがあるので、大きな形で、市内全体で夢先生っていった場あるかと思うんですけど、そのコーエー社の方に出てもらって、小学生全員と、つなげることができれば、足利出身の方と会話ができるような場があつていいと思います。

市長

やり方によっては、できますものね。

おおいに参考にしていきたいと思っています。

そのほかよろしいでしょうか。

これで本日の議題は終了させていただきます。

○閉会 午後5時00分